

# 卒論・卒レポの作成について

## 山崎ゼミ

山崎 輝

法政大学 経営学部 授業資料

# 論文・レポートの作成

## プレゼンと論文・レポートの違い

- ✓ **プレゼン**：スライド資料＋口頭によって説明が完結
  - ✓ **論文・レポート**：文章のみですべてを説明する必要あり
- ➡ 文章によるコミュニケーション能力はホワイトカラーには不可欠

## どのような論文・レポートが高評価となるのか？

- ✓ **正確性** ・ **必要十分な説明** > **わかりやすさ** ➡ わかりやすい文章表現も重要
- ✓ 内容だけでなく、日本語の正しさ、レポートの美しさ・読みやすさも重要
- ✓ 無闇にレポートの枚数を増やす必要はない

# 論文・レポートの構成 (1)

## 標準的な論文・レポートのアウトライン

- タイトルページ：タイトル、氏名、年月日、要旨（論文のみ、レポートは不要）

1.はじめに（序論）

2.〇〇（各論1） 2.1.●● 2.2.◎◎ ...

3.△△（各論2） 3.1.▲▲ 3.2.×× ...

4.おわりに（結論）

補論（Appendix） 補論 1.あああ 補論 2.いいい ...

# 論文・レポートの構成 (2)

本論	序論	論文・レポートの概略を最初に提示することで、読者にどのような内容なのかを予め伝える（背景、目的、先行研究の紹介など）
	各論	論文・レポートで述べたい個々の内容を様々なデータや情報を提示しながら必要かつ十分に説明する → <b>一番最初に作成！</b>
	結論	論文・レポート全体をまとめ、さらには筆者の主張したいことや結論を明記する
補論		本論とは独立させ、理論や手法の詳細について説明（ <b>追加課題</b> ） 本論では、補論の内容を引用することで説明をスリム化

# 論文・レポートの文章

## 論文・レポートの文章の作法

- 箇条書きではなく（**箇条書き禁止**）、原則、**文章**として論文・レポートを書く！
- すべての文章は**主語**と**述語**があり、文末は「。」で終わる
- むやみに改行せず、段落が変更されるときのみ改行 ➡ 段落冒頭は一字下げ
- 文体は「です・ます調」ではなく、「だ・である調」を使う
- 文学表現のような言葉遣いや用語の言い換えは不要、口語体は不可

# 図、表、グラフ等の扱い方

## 論文・レポート上の図、表、グラフなど

- 図、表、グラフなどは[文章から独立](#)させて掲載
- 図、表、グラフなどには以下を必ず付ける
  - ① **図表番号**、② **図表タイトル**（キャプション）、③ 出典（自作でない場合）
- 本文中の図、表、グラフなどの説明は、図表番号を引用して記述する
- 数値の単位がある場合は明記、グラフの縦軸・横軸も明記
- 図、表、グラフの扱い方に関する見本（参考文献）は[こちら](#)

# 数式・数学記号の扱い方 (1)

## 数式と数学記号の書き方の例

ある企業*i*の株式の期待収益率は

$$E[R_i] = r_f + \beta_i (E[R_m] - r_f), \quad (12)$$

と書くことができる。ただし、 $R_i$ と $R_m$ はそれぞれ企業*i*の株式と市場ポートフォリオの収益率、 $r_f$ は安全資産の利子率、 $\beta_i$ はCAPMのベータである。また、 $E[X]$ は確率変数*X*の期待値を表す。(12)式によると、株式の期待収益率は… (後略)

# 数式・数学記号の扱い方 (2)

## 数式・数学記号の作法

- 数式・数学記号は**文章の一部**として記述する（孤立させたり箇条書きにしない）
  - ✗  $R_i$  : 企業 $i$ の株式の収益率
- 初見の数学記号は何を表すのかを説明し、以後、同じ数学記号を繰り返し使う
- 長めの数式は一行を使って中央揃えで書き、右側に式番号を付ける
- 本文中で数式を参照するときは、式番号を引用する
- Microsoft Wordの数式エディタは「挿入」→「数式」

# 剽窃と引用

## 剽窃（ひょうせつ）とは？

- **剽窃**：他人の作品や文章を盗んで、自分のものとして発表すること
- **引用**：自分の論を説明するために、他の文章や事例を引くこと

### （記述例）

- ×剽窃：強化学習は、相互作用に基づく目標指向型の機械学習である。
- 引用：**松尾（2022）**では「強化学習は、相互作用に基づく目標指向型の機械学習である」と定義している。

参考文献：松尾豊，『強化学習 第2版』，北森出版，2022年。

# 参考文献リスト

---

- (1) ロバート キヨサキ, 『改訂版 金持ち父さん 貧乏父さん』, 筑摩書房, 2013年
- (2) バートン マルキール, 『ウォール街のランダム・ウォーカー 原著第12版』, 日経BP, 2019年
- (3) チャールズ エリス, 『敗者のゲーム 原著第9版』, 日経BP, 2015年
- (4) 山崎輝・吉川大輔, 「取引コストを伴う最適消費・投資問題の進展について」, 『イノベーション・マネジメント』, No.18, pp.141-159, 2021年3月
- (5) Cooley, P., Hubbard, C., and Walz, D., “Retirement savings: Choosing a withdrawal rate that is sustainable,” *AAll Journal*, Vol.10, No.3, pp.16-21, 1998
- (6) Merton, R., “Lifetime portfolio selection under uncertainty: The continuous-time case,” *Review of Economics and Statistics*, Vol.51, pp.247-257, 1969

参考文献リストの詳しい書き方は[こちら](#)

# 論文・レポートの統一形式

## 論文・レポートのフォーマット

- 論文・レポートはMicrosoft Wordで作成、用紙はA4サイズ
- 本文中のフォントサイズは11pt、日本語はMS明朝、英数字は半角Times New Roman、ただしタイトルや章節の見出しは適宜サイズやフォントスタイルを変更
- 数学記号の英字は数式エディタ、もしくはTimes New Romanの斜体で記述
- 図、表、グラフのフォント（サイズ・スタイル）は適宜設定可
- 本文は両端揃え
- ページ番号を必ず挿入し、ページ中央下に表示

# チェックリスト (1)

---

- タイトルページに、氏名、年月日、要旨が記載されているか？
- 序論、各論、結論、補論の順で、節番号を付けて構成されているか？
- ページ番号は付いているか？文章を十分に推敲したか？誤字・脱字はないか？
- 段落変更以外で改行していないか？ 段落の冒頭は一字下げになっているか？
- すべての文章で主語と述語は正しく対応しているか？ 文章は「。」で終わっているか？箇条書きを使っていないか？
- 複数で執筆した場合（卒レポ）、シームレスなレポートになっているか？

# チェックリスト (2)

---

- 「だ・である調」で統一されているか？ 文語体になっているか？
- 用語・数学記号は統一されているか？ 用語の言い換えはしていないか？
- 図、表、グラフは独立しているか？ 図表番号や図表タイトル、出典は明記しているか？ 本文中に図表番号で引用しているか？
- 数式・数学記号は正しい作法で使われているか？
- 本文中に剽窃はないか？正しく引用されているか？
- 参考文献リストのフォーマットは正しく統一されているか？